

日本人韓国語学習者の為の韓国語発音変化の諸規則

일본인 한국어 학습자를 위한 한국어 발음 변화의 제규칙

姜 奉 植 (高等教育推進センター)

Abstract

한국어는 구어에서 음운 변화가 활동적으로 일어난다. 음운 변화는 규칙적으로 일어나고 있어 학습자(일본어를 모어로 하는 한국어 학습자. 이하 ‘학습자’로 약칭.)들에게 발음 규칙을 제정하여 교육하고 있는 것이 현실인데 본고에서는 표준발음으로 인정치 않는 ㅎ음 약화와 중모음의 단모음화, 변자음화 현상까지 넣은 12개의 음운 변화를 다루었다.

특히 학습자들이 12개의 음운 변화를 빨리 이해하는 데에 주안을 두었는데 음운 변화를 빨리 이해하면 할수록 그만큼 음운 변화에 대한 습득도 빨라진다고 판단했기 때문이다. 음운 변화 이해를 도모하기 위해서 먼저 일본어에서 일어나는 유사한 음운 현상을 찾아냈고, 이를 통해 한일어 간의 음운 변화를 비교할 수가 있는데, 학습자들은 한국어의 음운 변화를 논리적으로 수월하게 이해하게 되는 효과가 있으며 또한 음운 변화의 습득도 이해도가 향상된 만큼 빨라지는 효과가 기대된다고 하겠다.

キーワード：音韻變化 同化 拾い読み時の発音 一続きとしての発音

1. ㅎ音の弱化
2. 有声音化
3. 連音
4. 濃音化
5. 激音化
6. 流音化
7. 鼻音化
8. ㄴ音の挿入
9. 口蓋音化
10. 重母音の單母音化
11. 頭音法則
12. 終声音の後続子音への同化

冒頭に上記項目の「1.ㅎ音の弱化」の大半と「10.重母音の単母音化」、「12.終声音の後続子音への同化」現象は、現在、標準発音（標準語の発音）としては認められていないことを先ずことわっておいてから本論に入る。

発音には、「拾い読み時の発音」と「一続きとしての発音」の二通りの発音があり、この2つの発音は音声として一致するとは限らない。

通常、ネイティブスピーカーは、単語ごと、文節ごと、あるいはまとまった1文をポーズを入れずに一続きとして発音する傾向があり、この「一続き」で発音した時に発音の変化が起きたりするものが常である。

音節(ハングル1文字)と音節を続けて発音する時は、音節どうしの結合になるので発音しにくくなるが多々ある。その時、結合する音声どうしが互いに影響しあい、発音しやすい方向に音声の同化作用が起きる。

本稿では、韓国語における発音変化の諸規則の後に「日本語での類似現象」をあえて提示した。この類似現象は、研究者の間でもまだよく知られている通説ではないが、日本人学習者に韓国語の音韻変化を指導する時に、日本語での類似現象を取り上げ、比較しながら説明すると、学習者たちの韓国語音韻変化への理解力を向上させる学習効果が大きいからである。同時に、音韻変化への発音習得もその分早まる効果が期待できると考える。

音節結合の4パターンと主な音韻変化

(1) 母音-子音

(子音)	母音	子音	母音
		(子音)	

2音節目の頭子音の有声音化、もしくはㅎ音の弱化が起きる。

(2) 母音-母音

(子音)	母音		母音
		(子音)	

母音同士が合体し、縮約される。

(3) 子音-子音

(子音)	母音	子音	母音
子音		(子音)	

子音同士が発音しやすいよう同化し、諸音韻変化が起きる。

(4) 子音-母音

(子音)	母音		母音
子音		(子音)	

連音が起きる。

1. ㅇ音の弱化

初声ㅇは、語頭では[h]で発音されるが、語中・語尾では先行音節に終声のない場合と終声「ㅇ・ㄹ・ㄴ」の場合（→3.連音で詳述）は、ㅇはサイレントに近いほど弱まる。（ただし、ㅇの前にポーズが入った、多少ゆっくりとした発音ではㅇ音の弱化は起きない。）

(子音)	母音	ㅇ	母音
		(子音)	

보호자[po(h)odʒa]保護者
 피해[pʰi(h)ɛ]被害

시험[ji(h)om]試験
 나한테[na(h)antʰe]ぼくに

***日本語での類似現象**

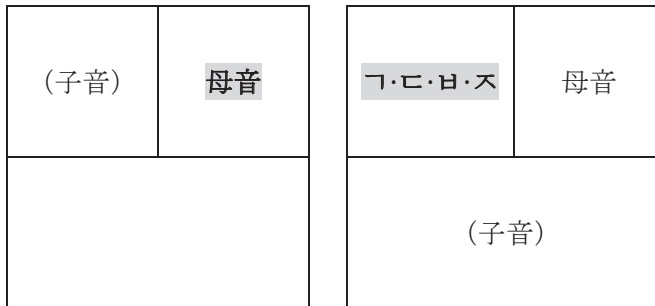
語中語尾での/h/の弱化現象は日本語にもあり、語中語尾のハ行音/h/は弱化し、音声としては脱落もしくは[w]に移行している。現在は、表記もハ行からア行とワに変わっているので気づきにくいかも知れない。しかし、下記の歴史的仮名遣いと現代仮名遣いを見比べればよく分かる。つまり、韓国語より日本語の方が/h/の弱化・脱落現象が早く進行したわけである。

	歴史的仮名遣い		現代仮名遣い
所謂	イハユル[iɸajuru]	→	イワユル[iwajuru]
飯	イヒ[ihi]	→	イイ[ii]
賜	タマフ[tamaɸu]	→	タマウ[tamau]
前	マヘ[mahe]	→	マエ[mae]
類	ホホ[hoho]	→	ホオ[hoo]

2. 有声音化

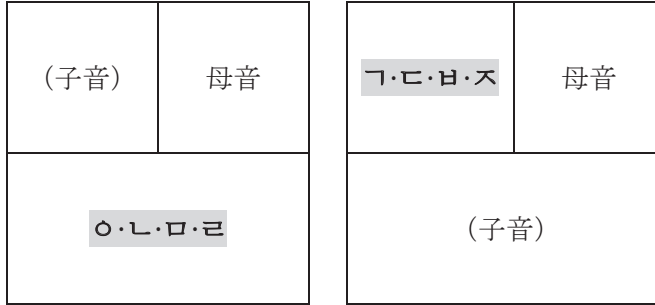
入を除いた平音「ㄱ·ㄷ·ㅂ·ㅅ」は、語頭では無声音で発音されるが、語中・語尾では有声音で発音されることがある。

(1) 語中・語尾の平音「ㄱ·ㄷ·ㅂ·ㅅ」は、母音で終わる(終声のない)音節に続く場合は、一部の例外(慣用読みや合成語の一部)を除き、有声音で発音される。



아가[aga]赤ちゃん 지도[ʧido]地図 두부[tubu]豆腐
 모자[modʒa]帽子 아버지보다[abodʒiboda]父より

(2) 終声「ㅇ·ㄹ·ㄴ」で終わる音節に続く平音「ㄱ·ㄷ·ㅂ·ㅅ」は、多くの場合、有声音で発音される。



공기[koŋgi]空気 온도[ondo]温度
 갈비[kalbi]カルビ 남자[namdʒa]男子

***日本語での類似現象**

①この現象は、日本の東北方言で見られる「清音の濁音化」と音韻的に同じ現象である。東北方言では、カ行音とタ行音が語中・語尾で濁音化してガ行音とダ行音で発音されることがある。

盛岡(モリオカ) [morioka] → [morioga] 山形(ヤマガタ) [jamagata] → [jamagada]
 男(オトコ) [otoko] → [odogo]

②日本語の合成語などにおいて後続語の頭音が元清音であるにも係わらず、濁音化することを「連濁」というが、これも音韻的には有声音化と同じ現象である。

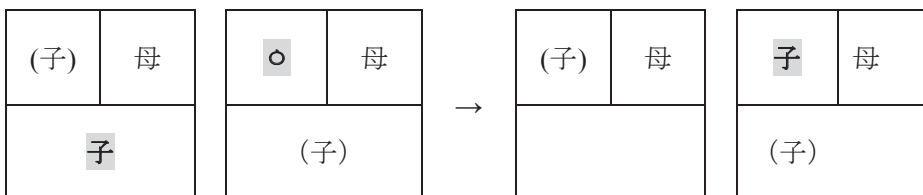
国々(クニグニ) 真鯛(マダイ) 三日月(ミカヅキ)

③終声「○・ㄴ・ㄹ」は日本語の撥音「ん」にあたる音であるが、漢語内部では「ん」の後続音として清音が来るのが一般的である。しかし、固有語においては濁音が来ることが多い。

読んだ(ヨンダ) 飲んで(ノンデ) 考える(カンガエル)
 踏ん張る(フンバル) 神田(カンダ) 汝(ナンヂ)

3. 連音

終声のある音節のあとに初声○から始まる音節が続くと、初声○は先行終声に置き換えられ、すなわち先行終声が次音節の初声に移って発音される。これを連音(リエゾン)という。この時、連音された終声が、平音「ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ」の場合は有声音で発音される。



한국어[한구거]韓国語 한국이[한구기]韓国が 한국은[한구근]韓国は

한국에[한구게]韓国に 단어[다너]単語 음악[으막]音楽
 영어[jɔŋ-ɔ>jɔ-ŋɔ]英語 종이[jɔŋ-i>jɔ-ŋi]紙

***¹終声○の連音**

終声○[ŋ]も連音する。この発音は日本語のガ行鼻濁音「カ°」に当たる音である。終声○[ŋ]は、濁音でなく鼻音なので、しっかり鼻音を出して発音することがポイントである。しかし、この発音を苦手にする日本人が多いので、鼻音の発音がうまくいかない学習者は無理した連音をやめ、영-어[jɔŋ-ɔ]、중-이[jɔŋ-i]と1文字ずつしっかり発音するように指導した方が効果的である。1文字ずつの拾い読みの方がいい加減な連音よりは通用するからである。

봉우리[po-ŋuri]峰 방울[pa-ŋul]鈴 상어[sa-ŋɔ]鮫 장어[jʃa-ŋɔ]鰻
 콩알[kʰo-ŋal]豆粒 향아리[ha-ŋari]甕 성우[sɔ-ŋu]声優 강아지[ka-ŋadʒi]子犬
 망아지[ma-ŋadʒi]子馬 송아지[so-ŋadʒi]子牛 고양이[koja-ŋi]子猫 병아리[pjɔ-ŋari]雛

***日本語での類似現象**

鎌倉・室町時代には「連声」という音声同化現象があり、かなり規則的に行われたようである。韓国語のように音節末子音がまるごと次音節の頭音に移るのではなく、音節末子音を残しながら次音節に連音する形である。例えば、下記の例などは2文字目の頭音に[n]や[m][t]が添加されているが、それは前の音節末子音の繰り返し音で、すなわち「連声」というものである。(実は、下記(1)*¹のように韓国語にも連声のような連音の仕方も存在する。)

反応(한ㄴㄹ우) 観音(칸ㄴㄴ) 天王(텐ㄴ우) 銀杏(깁ㄴ안)
 因縁(인ㄴ연) 万葉(만ㄴ요우) 三位(산ㄴ미) 陰陽(온ㄴ요우)
 屈惑(クㄴ탁)屈託 雪隠(세ㄴ친)

初級用(1) 激音と濃音の連音

激音と濃音の終声は、終声で発音する時は両方とも平音で発音されるが、連音して次音節の初声で発音される時は、一部の例外を除き、本来の激音と濃音で発音される。

같아요[가타요]同じです 꽃이[꼬치]花が 끝에[꼬테]終りに
 앞에[아페] 前に 밖에[마께]外に 있어요[이썬요]います・あります

*¹終声音を意識した発音(ややゆっくりとした発音)では、[같타요][압페]のように終声音を発音しながら連音することがある。

*²例外：발 아래[바다래] 걸옷[거돋] 꽃 위[꼬뒤>꼬디]

初級用(2) ㅎの弱化と連音

①先行音節に終声がない時の後続音ㅎの弱化については1.で先述したとおりであるが、先行音節の終声は鼻音「ㅇ・ㄹ・ㄴ」と流音ㄹの場合も、後続音ㅎはサイレントに近いほど弱まり、先行音節の終声が連音して発音される。

동해[tɔŋ-he>to-ŋ^(h)ɛ]東海 공항[koŋ-haŋ>ko-ŋ^(h)aŋ]空港
 은행[uŋ-hɛŋ>u-n^(h)ɛŋ]銀行 번호[bɔn-ho >bɔ-n^(h)o]番号
 남해[nam-he >na-m^(h)ɛ]南海 심하다[ʃim-hada >ʃi-m^(h)ada]ひどい

올해[ol-he > o-l^(h)ε]今年 서울행[soul-heŋ > sou-l^(h)εŋ]ソウル行き

②終声ㅎは、連音したら決ってサイレントになる。

좋아요[조하요>조아요] 良いです 좋아지다[조하지다>조아지다]良くなる

좋은 사람[조흔사람>조은사람]良い人 놓아라[노하라>노아라]放せ

初級用(3) 複子音終声の連音

①複子音終声の場合も初声ㅇから始まる音節が後続すると連音するが、決まりがある。左側の第1子音が終声音として発音され、右側の第2子音が連音するという決まりである。その際、連音した第2子音が平音の場合、その発音は、終声音として残った第1子音の種類によって有声音もしくは濃音で発音される。

넓이[널비]広さ 젊은 이[절므니]若者

늙은 이[늘그니]年寄り 값이[갑시>갑씨]値段が

앉으세요[안즈세요]座ってください 읽으세요[일그세요]読んでください

*¹닭이(鶏が)は、第1子音ㄷのサイレントによる[[다이>)다기 ta-gi]と発音する。

②複子音終声の第2子音がㅎの場合、ㅎは連音して決ってサイレントになる。よって、引き続き、第1子音が連音する。

많이[[만히>만い>)마니 ma-n^(h)i]たくさん

가지 않아요[가지아나요 kadzia-n^(h)ajoj]行きません

옳아요[오라요 o-l^(h)ajoj]正しいです

싫어요[시러요 ji-l^(h)ojoj]いやです

中級用(1) 終声「ㅏ・ㅑ・ㅓ」の[ㄷ]連音

①終声が「ㅏ・ㅑ・ㅓ」である語の中には、例外的に[ㄷ]で連音する語がある。

웃 어른[우더른]目上の人 첫 아이[처다이]初子 젖 어머니[저더머니]乳母

몇 월[며될>며덜]何月 웃 오르다[오도르다]漆にかぶれる

②終声「ㅏ・ㅑ・ㅓ」で終わる語に있다・없다가付くと[ㄷ]で連音するが、있다の場合は[ㅏ]連音も認められることがある。

맛있다[마딘따/마신타]美味しい 맛없다[마덜따]美味しくない

멋있다[머딘따/머신타]かっこいい 멋없다[머덜따]かっこわるい

덧없다[더덜따]はかない 느닷없이[느다덜씨]いきなり

빚 있다[비딘따/비신타]借金がある 빚 없다[비덜따]借金がない

꽃 있다[꼬딘따/꼬신타]花がある 꽃 없다[꼬덜따]花がない

4. 濃音化

終声音[ㄱ]・[ㄷ]・[ㅂ]に続く次音節の平音「ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅏ・ㅑ」は、それぞれの濃音[ㄱ]・[ㄷ]・[ㅂ]・[ㅏ]・[ㅑ]で発音される。この場合の濃音の発音は、先行終声音の影響を受けるので、

それほど意識しないで清音で発音すれば自然に濃音のようになる。

(子音)	母音	ㄱ·ㅈ·ㅊ· ㅅ·ㅆ	母音
[ㄱ]·[ㅈ]·[ㅊ]		(子音)	

축구[축꾸]蹴球 독도[독또]独島 학벌[학뻔]学閥 국수[국쑤]素麵
 극장[극짱]劇場 옷가게[온까게]洋服屋 꽃밭[꼇뻔]花畑 낮잠[낫짱]昼寝
 납득[납뚝]納得 압수[압쑤]押収

***日本語での類似現象**

終声音[ㄱ]·[ㅈ]·[ㅊ]のあとの平音が濃音で発音されるということは、すなわち、平音が有声音化しないで無声音で発音されるということである。これは、日本語においてそっくり同じ現象がある。終声音[ㄱ]·[ㅈ]·[ㅊ]は、大まかにいえば促音「ッ」にあたる音であるが、「ッ」のあとに続く音を考え起こせば答えは分かるはずである。基本的に固有の日本語において「ッ」のあとに有声音（濁音）が立つことはなく、無声音（清音・半濁音）のみが続く。

ただ、最近では外来語やごく一部の漢語などに「ッ」のあとの濁音も見かける。例えば、「ベッド・ヘッド・ビッグ・脱北」など。

なお、「ッ」のあとの清音・半濁音の発音は、つまる音「ッ」の影響を受けるので自然に濃音に近い音になる。

初級用(1) 合成語内部の濃音化

合成語の場合、後続語の語頭の平音は濃音で発音される傾向がある。

손 등[손뚱]手の甲 이번 달[이번뻔]今月
 빵 집[빵짱]パン屋 다음 주[다음쑤]来週
 밤 길[밤길]夜道 밤 손님[밤손님]泥棒
 아침 밥[아침뻔]朝食 일본 사람[일본싸람]日本人

中級用(1) 漢語内部の濃音化

漢語内部で終声ㄷに後続する「ㄷ·ㅅ·ㅆ」も濃音化する傾向がある。

발달[발뻔]発達 열도[열또]列島 발생[발쌩]発生
 실시[실씨]実施 결정[결짱]決定 발전[발쩨]発展

以下、漢語の内、下記のような語は2音節目以下で濃音化が目立つ。

価(가) : 대가[대까]対価 단가[단까]単価 물가[물까]物価 음가[음까]音価

權(권) : 정권[정권]政權 주권[주권]主權 물권[물권]物權 기본권[기본권]基本權
 券(권) : 여권[여권]旅券 증권[증권]証券 발권[발권]發券 승차권[승차권]乘車券
 圈(권) : 수도권[수도권]首都圈 당선권[당선권]當選圈
 여권[여권]與黨勢力 야권[야권]野黨勢力
 格(격) : 본격[본격]本格 성격[성격]性格 엄격[엄격]嚴格 승격[승격]昇格
 科(과) : 내과[내과]內科 외과[외과]外科 안과[안과]眼科 공과[공과]工科
 件(건) : 요건[요건]要件 사건[사건]事件 조건[조건]條件 용건[용건]用件
 法(법) : 헌법[헌법]憲法 형법[형법]刑法 민법[민법]民法 상법[상법]商法
 字(자) : 한자[한자]漢字 문자[문자]文字 활자[활자]活字
 로마자[로마자]ローマ字
 点(점) : 장점[장점]長所 단점[단점]短所 감점[감점]減點 오점[오점]汚點

中級用(2) 用言の語尾の濃音化

用言語幹に続く語尾の平音は、語幹末音節の終声がㄹの場合には有声音で発音され、「ㅎ・ㄹ・ㄷ」の場合は激音で発音されるが、これ以外の終声の場合は、濃音で発音される。

감-다[감따]卷く 신-다[신타]履く 남-자[남짜]残ろう
 검-고[검꼬]黒いし、 숨-기[숨끼]隠れること 남-겠다[남겐따]残る
 넘-거든[넘꺼든]超えたら 신-든지[신타]履こうが
 젊-다[점따]若い 넓-다[널따]広い 젊-게[점게]若く
 읽-도록[익또록]読むように 앉-지마[안찌마]座るな

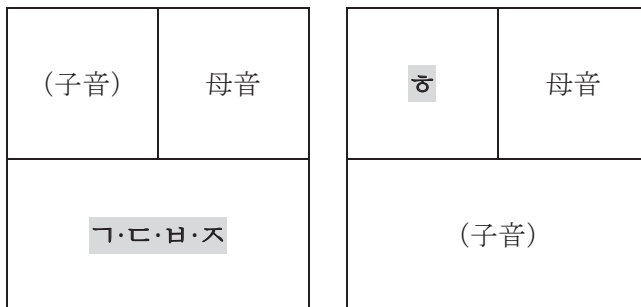
中級用(3) 連体形「-을」の後続平音の濃音化

숨을 데[수믈떼]隠れるところ 먹을 거[머글꺼]食べ物
 만날 사람[만날싸람]会う人 마실 거[마실꺼]飲み物

5. 激音化

(1) 終声と初声との激音化

終声「ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅈ」の後に初声ㄱが続くと終声とㄱが合体し、それぞれの激音で発音される。



終声	初声	合体(激音化)
ㄱ		[ㄱ]
ㄷ	+ ㅎ →	[ㄷ]
ㅂ		[ㅃ]
ㅈ		[ㅉ]

부탁해요[부타캐요]お願いします 만형[마텅]長兄
 입학[이팍]入学 잊혀지다[이쳐지다]忘れられる
 *1終声音を意識した発音では、[부탁캐요][이팍]のように終声音を発音し、なおかつ激音化が起きることがある。(以下同)

中級用 (1)

[ㄷ]で発音される終声語「ㅂ·ㅈ·ㅉ」の場合もㅎが後続すると合体して激音[ㄷ]で発音される。

따뜻하다[따뜨타다]あたたかい 못 하다[모타다]できない
 맞흥정[마흥정]直取り引き 낮하고[나타고]昼と
 몇 호실[머토실]何号室 몇 해[며태]何年

上級用 (1)

① 밝다·읽다·밟다·넓다などの複子音終声用言の語幹の後に接辞히が続くと、第1子音ㄷが終声音となり、第2子音は接辞히と合体して激音化を起こす。

밝히다[발키다]明るくする 읽히다[일키다]読ませる
 밟히다[발피다]踏まれる 넓히다[널피다]広くする

② 앉다·엎다の場合も激音化が起きる。

앉히다[안치다]座らせる 엎히다[언치다]載せられる

(2) 終声ㅎと初声との激音化

終声ㅎの後続音初声が「ㄱ·ㄷ·ㅂ·ㅈ」の場合も合体して激音化が起きる。(ただし、初声ㅂによる激音化は用例がない。)

(子音)	母音	ㄱ·ㄷ·ㅂ·ㅈ	母音
ㅎ		(子音)	

終声		初声		合体(激音化)
		ㄱ		[ㄱ]
ㅎ	+	ㄷ	→	[ㅌ]
		ㅌ		[ㅌ]

이렇게[이러케]このように 그렇게[그러케]そのように
 좋다[조타]よい 넣다[너타]入れる
 좋지[조치]いいね 넣자[너차]入れよう

*¹終声音を意識した発音では、[이런케][그런케]よりも終声音[ㄷ]が後続音[ㄱ]に同化した[이러케][그러케]の方でよく発音される。

*²좋다・넣다なども좋다[죤타]・넣다[넌타]と終声音を残しながら激音化が起きることもある。

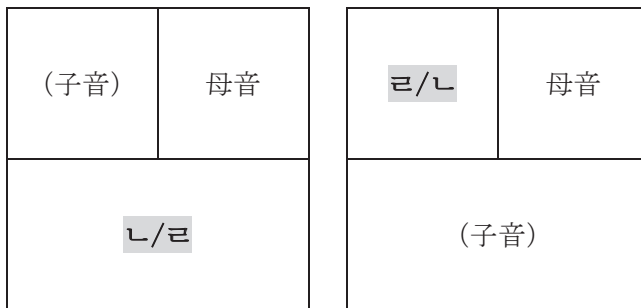
初級用(1)

第2子音がㅎである複子音終声の場合も後続音との間に激音化が起きる。

괜찮고[괜찬코>괜찬코/괜창코>괜창코]大丈夫だし、
 많거든[만커든/망커든]多かったら
 없다[일타]なくす 싫던[실턴]いやだった (連体形)
 옹지[올치]よし! 끊자[끈차]切ろう

6. 流音化

ㄴと流音ㄹは、調音点が近接した、音声として近い音どうしである。ㄴとㄹを交互に発音すれば、ㄴとㄹの調音点の近接さが、硬口蓋に付く舌尖の位置で確かめられる。この近接音ㄴとㄹは、片方が終声に立ち、他方が次音節の初声に立って隣接するとㄴはㄹに同化し、両子音ともに流音ㄹで発音される。



終声 初声 発音(両方)
 ㄴ/ㄹ + ㄹ/ㄴ → [ㄹ]+[ㄹ]

근로[글로]勤勞 진로[질로]真露 연락[열락]連絡 원래[월래]元來
 일년[일련]1年 물놀이[물로리]水遊び 설날[설랄]お正月

겨울 날씨[겨울날씨]冬の天気

*ㄷがㄴに同化する語もある。

의견란[의견란]意見欄 판단력[판단력]判断力
 신문로[신문노]新門路 생산량[생산량]生産量
 신 라면[신라면]辛ラーメン 치킨 라면[치킨라면]チキンラーメン
 온 라인[온라인]オンライン 빨간 라인[빨간라인]赤いライン
 *¹方言：일어났다→인난나 얼른→얼릉→언능
 *²ㄷとㄴ両方に同化する語も一部にある。
 당인리[당일리/당인니] 신선로[신설로/신선노] 음운론[음울론/음운논]

*日本語での類似現象

日本語にもこれと類似した現象があり、下記例のように話し言葉でよく起きている。ただし、日本語では[r]が[n]に同化する。

わからない(ワカラナイ>ワカンナイ) [wakaranai>wakannai]
 走りなさい(ハシリナサイ>ハシンナサイ) [hajirinasai>hajinnasai]
 来るのよ(クルノヨ>クンノヨ) [kurunojo>kunnojo]
 ~てくれない(クレナイ>クンナイ) [kurenai>kunnai]

7. 鼻音化

/ㄱ/・/ㄷ/・/ㅌ/で発音される終声の後に鼻音「ㄴ・ㄹ」が続くと、先行終声音は、後続鼻音の影響を受けてそれぞれの鼻音(/ㄱ/>[ㅇ]、/ㄷ/>[ㄴ]、/ㅌ/>[ㄹ])に変わって発音される。

(子音)	母音	ㄴ・ㄹ	母音
/ㄱ/・/ㄷ/・/ㅌ/		(子音)	

終声 終声音

/ㄱ/ → [ㅇ]

/ㄷ/ → [ㄴ]

/ㅌ/ → [ㄹ]

(1) /ㄱ/ → [ㅇ]

국민[궁민]国民 닦니[당니]磨いているか 한국 남자[한궁남자]韓国の男

(2) /ㄷ/ → [ㄴ]

끝나다[끈나다]終わる 좋니[죤니]いいか 옷 맵씨[온맵씨/옴맵씨] 着こなし

(3) /ㅁ/ → [ㅁ]

입니다[임니다]です 십만[심만]10万 밥맛[밤맛]食欲

*** 日本語での類似現象**

終声音が、/ㄱ/→[ㅇ]、/ㄷ/→[ㄴ]、/ㅁ/→[ㅁ]に変わるのを日本語で大まかにいえば、促音[ッ]→撥音[ン]に変わるような現象であるが、これは、実は日本語によくある現象でもある。しかも韓国語と同じく、ナ行[n]とマ行[m]の前で促音が撥音に変わる。ただし、変わった撥音で表記しているのので、促音から変わったことに気づきにくいのだと考えられる。

例えば、真(ま)は、強調の意の接頭語として用いる時は「ま-」となるが、他に「まっ-」と「まん-」になることがある。

「ま-」：まうえ(真上) まふゆ(真冬) まあたらしい(真新しい)

「まっ-」：まっか(真っ赤) まっすぐ(真っ直ぐ) まっただなか(真っ只中)

まっとう(真っ当) まっぴるま(真っ昼間)

「まん-」：まんなか(真ん中) まんな(真名)

まんまる(真ん丸) まんまえ(真ん前)

「な」と「ま」の前で「まっ-」が「まん-」に変わっている。韓国語と同じ現象でまさに鼻音化そのものといえる。下記例なども鼻音化によるものである。

打つ 「ぶっ-」：ぶっかける ぶっちぎる ぶっばなす

「ぶん-」：ぶんなぐる ぶんなげる ぶんまわす

突く 「つつ-」：つつかかる つつつく つつばねる

「つん-」：つんのめる

引く 「ひっ-」：ひっかける ひったくる 引っぱたく

「ひん-」：ひんまがる ひんまげる ひんぬく

初級用(1) 複子音終声の鼻音化

없니[엄니]ないか ㄱ 나가다[감나가다]値打ちがある

닭 머리[당머리]鶏の頭 읽니[잉니]読んでいるか

밟는[밤는]踏む(連体形) 읊는[음는]詠ずる(連体形)

初級用(2) ㄷ[n]による鼻音化

ㄴとㄷの流音化については先述したとおりであるが、流音化が起きない終声の条件、すなわち「ㄴ・ㄷ」以外の終声の後にㄷが続くと、ㄷは発音が親近音[n]に変る。変わった[n]は鼻音でなので先行音節の終声音を鼻音化させる。ただし、終声がすでに鼻音「ㅇ・ㄹ」である場合は鼻音化は起きず、ㄷのみが[n]に発音が変わる。

(子音)	母音
/ㄱ/・/ㄷ/・/ㅂ/・/ㅇ/・ /ㅁ/	

ㄹ[n]	母音
(子音)	

終声 終声音

/ㄱ/ → [ㅇ]

/ㄷ/ → [ㄴ]

/ㅂ/ → [ㅁ]

국립[궁닙]国立 박람[방남]博覽 폭력[퐁녁]暴力
 몇 라운드[먼나운드]何ラウンド 몇 루블[먼누블]何ルーブル
 법률[범눌]法律 합리[함니]合理 협력[험녁]協力
 상류[상뉴]上流 대통령[대통령]大統領 금리[금니]金利 삼류[삼뉴]三流

8. ㄴ音挿入

「先行語 - 後続語」からなる合成語などにおいて、「先行語(終声で終わる語) - 後続語(이・야・여・요・유・애・예から始まる語)」の場合、後続語に綴字にない[ㄴ]が入り込み、それぞれ[니][냐][녀][뇨][뉴][내][네]で発音される。

先行語		後続語	
(子) 母	(子) 母	ㅇ [n]	ㅣ.ㅍ.ㅋ. ㅍ.ㅠ.ㅊ. ㅈ
(子)	子	(子)	(子)

밤 일[밤닐]夜の仕事 두통약[두통낙]頭痛薬 시청역[시칭녁]市庁駅
 부당 요구[부당뇨구]不当な要求 투명 유리[투명뉴리]透明ガラス
 뭘 얘기[뭘내기>먼내기]何の話 보통 예금[보통네금]普通預金
 참 이쁘다[참니쁘다]実にかわいい 잠깐만요[잠간만뇨]ちょっと (すみません)

中級用(1) ㄴ音挿入による子音同化

後続語に[ㄴ]が入り込むと、先行語末の終声と共に所定の子音同化(鼻音化や流音化)が起きる。

옛 이야기[옛니야기>엔니야기]昔話 못 잊어[못 니저>몬니저]忘れられない

앞 이마[앞니마>암니마]前額
종각 역[종각녁>종강녁]鍾閣駅
별 일[별닐>별틸]変わったこと

한국 야구[한국야구>한궁야구]韓国の野球
서울 역[서울녁>서울력]ソウル駅
할 예정[할네정>할레정]する予定

*¹ㄴ音未挿入例

첫 인상[처딘상 친닌상^x]第一印象
장밋빛 인생[장민삐딘생 장미뻤닌생^x]ばら色の人生

*²ㄴ音挿入未挿入混在例

옷 입어[온니버 오디버]服着て 못 있겠어[몬닐께써 모딘께써]いられない

9. 口蓋音化

終声「ㄷ・ㅌ」のあとに이が続くと連音して[디]・[티]になるが、実際には一部の例外語を除いて口蓋音化が起き、[지]・[치]と発音される。

굳이[구디>구지]あえて 해돋이[해도디>해도지]日の出
같이[가티>가치]一緒に 날날이[난나티>난나치]一つ残らず

*¹激音 [치] の場合は、終声音を意識して発音すると 같이[갈티>갈치]・날날이[난날티>난날치]のように終声音を残しながらかつ口蓋音化が起きる。(以下同)

中級用(1) 接辞히による口蓋音化

終声ㄷのあとに接辞히が続いた時は、まず激音化により[티]となるが、口蓋音化して[치]と発音される。

갈히다[가티다>가치다]閉じ込められる 닫히다[다티다>다치다]閉まる
묻히다[무티다>무치다]埋められる 굳히다[구티다>구치다]固める

*日本語での類似現象

[디]・[티]が[지]・[치]と発音される口蓋音化は日本語でも起きた。チの発音は、歴史的に見ると室町時代までは[ti]と発音されていたが、同時代に口蓋音化が起き、いまのような音[tʃi]に変わったといわれている。ちなみに、ツも同時期に口蓋音化が起き、それまでの発音[tu]からいまのような音[tʃu]になったのである。

10. 重母音の単母音化

重母音「ㅃ・ㅄ・ㅅㅅ・ㅆㅆ・ㄱㅅ・ㄱㅆ・ㅅㅅㅅ・ㅆㅆㅆ」は、語頭でしかも初声子音がㅇの時はしっかり重母音で発音されるが、語中・語尾に現れたり、もしくは初声子音がㅇ以外の時には多少速く発音すると下記のように単母音化する傾向がある。(ただし、この単母音化現象は普遍化していないので、綴字を意識して発音すると単母音化しにくくなる。)

키>기	히>기					
과>가	거>기	나>기	내>기	데>기	나>기	더>기

(1) 初声子音がㅇの時

①語頭では単母音化しない。

예보 (予報) 얘기 (話) 왕 (王) 위치 (位置) 의사 (医師)
 왜 (なぜ) 웬 만큼 (そこそこ) 외토리 (一人ぼっち) 원조 (元祖)

②語中・語尾では単母音化が起きることがある。

일기 예보[일기에보]天気予報 학교 얘기[학꾜얘기]学校の話
 수완[수안]手腕 지위[지이]地位 호의[호이]好意
 하드 웨어[하드에어]ハードウェア 내외 분[내에분]ご夫妻
 구워서[구어서]焼いて

(2) 初声子音がㅇ以外の時

語頭・語中・語尾を問わず単母音化が起きることがある。

계산[계산]計算 화장실[하장실]化粧室 앞뒤[압띠]前後ろ 희망[희망]希望
 괜찮아요[괜차나요]大丈夫です 궤도[게도]軌道 열쇠[열쎄]鍵 뭐[머]何

*** 日本語での類似現象**

現代語では、下記のようにワ[wa]・ヲ[wo]が単母音化してア[a]・オ[o]で発音されることがある。

わたし→[アタシ] あなたを→[アナタオ]

歴史的には、「化・課・火・華・貨・過・花・科・寡・禍・菓・靴」などの漢語は「クワ」と読まれていたが、江戸時代から次第にその発音が単母音化し、「カ」になったといわれる。

このような単母音化現象は、他にも「光」クワウ→コウ、「官」クワン→カン、「貴・婦」クキ→キ、「化」クエ→ケなどからも見られる。

初級用(1) 連音+単母音化

북위[부귀>부기]北緯 백원[배권>배건]100ウォン
 편의점[피니점>피니점]コンビニ 물 위에[무뤄에>무리에]水の上に

初級用(2) 単母音化+ㅎ音の弱化

후회[후헤>후에]後悔 기회[기헤>기에]機会
 회화[헤하>헤아]会話 대화[대하>대아]対話

初級用(3) 激音化+単母音化

잡화[자파>자과 잡과]雑貨 백화점[배과점>배카점 백카점]デパート

국회[구회>구케 국케]国会 육회[유회>유케 육케]ユッケ

中級用(1) ㅎの弱化+連音+単母音化

전화[전와>저너>저나]電話 만화[만와>마너>마나]漫画
 은혜[은예>으네>으네]恩恵 삼회[삼외>사피>사메]3回

*** 助詞の発音**

属各助詞「の」にあたる助詞의は改まった時以外は通常[에]で発音する。

한국의[한국에>한구게]韓国の 남자의[남자에]男の
 서울의[서울에>서우레]ソウルの 의의의 정의[의이에정어]意義の定義

11. 頭音法則

本来、韓国語の語頭にㄷは立たない。ㄷから始まる語は、外来語や漢語のみで固有の韓国語にはないということである。そのため、韓国人は語頭のㄷ音を苦手とする。

最近は、外来語の影響で語頭のㄷ音を幾分発音できるようになったものの、綴字を意識しないで発音するとついㄷ音を正確に発音できなくなる。その現れとして[ㄷ]を落として発音したり、もしくは親近音[ㄴ]に変えて発音したりする。これをㄷ頭音法則という。

この現象は、ㄷの親近音ㄴにも影響を与え、語頭のㄴも[ㄴ]を落して発音するようになり、これをㄴ頭音法則という。ㄴ頭音法則にはごく一部の固有語も含まれる。

両法則に該当する漢語や一部の固有語は、変わった音で表記をすることになっている。したがって、同一語が語頭と語中・語尾でそれぞれ異なった綴字を使うことになっている。(ただし、北朝鮮では語頭の表記は変えていない。)

(1) ㄷ頭音法則

①語頭のㄷが落ちる場合

ㄷに続く母音が「이・야・여・요・유・애・예」である時、語頭ㄷは落ちる。

	語頭	語中・語尾	語頭	語中・語尾
理	이	리	이유 (理由)	지리 (地理)
量	양	량	양산 (量産)	대량 (大量)
力	역	력	역점 (力点)	노력 (努力)
料	요	료	요리 (料理)	재료 (材料)
留	유	류	유학 (留学)	정류 (停留)
礼	예	례	예의 (礼儀)	실례 (失礼)

②語頭のㄷがㄴに変わる場合、

ㄷに続く母音が①で挙げた母音以外の時は語頭のㄷがㄴに変わる。

	語頭	語中・語尾	語頭	語中・語尾
裸	나	라	나체 (裸体)	전라 (全裸)
樂	낙	락	낙원 (樂園)	오락 (娛樂)
勞	노	로	노동 (勞働)	위로 (慰勞)
論	논	론	논문 (論文)	이론 (理論)
來	내	래	내년 (來年)	미래 (未來)

*日本語での類似現象

古代日本語の特徴の1つとして語頭にラ行音は立たなかったといわれる。これは、ラ行から始まる語が漢語と外来語に集中していることから容易に推察できる。要するに、日本語と韓国語は本来、語頭に[r/l]は立たなかったわけである。

漢語などは早くから日本に入ってきたので日本人も語頭の[r]を意識し、徐々に発音できるようになってきたのだと考えられるが、近世に入っても「ロシア」という発音がいいにくくて19世紀末までは「オロス(俄羅斯)」といたり、「オロシャ」といたりしていた。日本人も近世まではどうもラ行から始まる語は苦手だったようである。

(2) ㄴ頭音法則

ㄴに続く母音がㄷ頭音法則①で挙げた「이・야・여・요・유・애・예」である時、語頭ㄴは落ちる。

	語頭	語中・語尾	語頭	語中・語尾
女	여	녀	여자 (女子)	미녀 (美女)
年	연	년	연내 (年内)	내년 (來年)
尿	요	뇨	요도 (尿道)	당뇨 (糖尿)
匿	익	닉	익명 (匿名)	은닉 (隱匿)
	이	니	이 (齒)	어금니 (奧齒)

12.終声音の後続子音への同化

韓国語では변자음화という。終声音「ㄷ/ㄷ/ㄴ」が、齒茎音「ㄷ/ㄴ/ㄴ」と調音点の異なる後続子音「ㄷ/ㄴ/ㄴ」(兩唇音)と「ㄱ/ㄱ」(軟口蓋音)の前で、調音点の位置を後続子音の調音点に同化させ、発音することをいう。

また、終声音がㄷ/ㄴ/ㄴで後続子音がㄱ/ㄱの場合でも起きることがある。(ただし、両方とも標準発音では認められていない。)

꽃가게[꼭까게]花屋 옷걸이[옥꺼리]ハンガー 젓가락[적까락]箸
 돋보기[돛뽀기]老眼鏡 맛보기[맷뽀기]味見 멋 부리다[멧뿌리다]お洒落する
 꽃마을[꿈마을]村(美化語) 밭매기[봌매기]畑の草取 젓먹이[점머기]乳呑児
 전기[정기]電気 손가락[송까락]手の指 예쁜 가방[예뽕가방]可愛いカバン
 안부[암부]安否 신발[심발]履物 신문[심문]新聞
 밥 그릇[박끄른]茶碗 압구정동[악꾸정동]狎鷗亭洞 손 잡고[손작꼬]手を握って

감기[강기]風邪 강남구청[강남구청]江南区庁 종로삼가[종노상가]鍾路3街

***日本語での類似現象**

韓国語の終声は、日本語の促音「っ」と撥音「ん」にあたる音節末子音のことである。促音と撥音は、後続音に同化して発音される特徴を持っており、下記例のように促音は後続子音で発音され、撥音は後続音の鼻音で発音される。

イッカイ(一回) [ikkai] イットー(一頭) [itto:]
 イツソク(一足) [issoku] イッ파이(一杯) [ippai]
 センカイ(千回) [senkai] セントー(千頭) [sentō:]
 센세이(先生) [sensei] 센포(千歩) [sempo]

音節末子音の発音を後続音に同化させて発音する、この現象は日本語では特段と珍しいことではない。通常、普通に起きている発音の同化現象である。

***発音変化表 (1.~7.までの発音変化を表にまとめたもの。)**

当音節の末音		次音節の頭音		発音の変化
母音		子音	ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ	有声音化
			ㅇ	ㅇ音の弱化
母音		母音		母音の合体・縮約
子音	ㅇ・ㄴ・ㄹ・ㄷ	子音	ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ	多くは有声音化
	/ㄱ/・/ㄷ/・/ㅂ/		ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ・ㅅ	濃音化
	ㅇ		ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ	激音化
	ㄱ・ㄷ・ㅂ・ㅅ		ㅇ	激音化
	ㄴ		ㄷ	流音化
	ㄷ		ㄷ	流音化
	/ㄱ/→[ㅇ] /ㄷ/→[ㄴ] /ㅂ/→[ㅁ]		ㄴ・ㄹ ㄷ[ㄴ]	鼻音化
			母音	

参考文献

姜奉植(1995)、韓国語会話入門、東方書店。
 姜奉植(1996)、日本人のための 언뉘낵뉘뉘·언뉘낵뉘뉘뉘 韓国語入門1・2、
 時事日本語社・国書刊行会。
 姜奉植(2005)、일본어를 모어로 하는 한국어 학습자 들의 받침 발음의 문제점과

교정법、Journal of Northeast Asian Studies.

姜奉植(2008)、なるほど!韓国語 一文字と発音編一、研究社。

姜奉植(2011)、한국어 음운 변화와 유사한 일본어의 음운 현상에 관하여
—일본어를 모어로 하는 한국어 학습자 들의 음운 변화 학습을
위해서—、국제 한국어교육학회 제21차 국제학술대회지。

김주필(1998)、국어 폐쇄음의 음성적 특징과 음운현상、국어학 강좌 4 음운 I、
태학사。

배주채(1998)、음절말 평 폐쇄음화에 대하여、국어학 강좌4 음운 I, 태학사。

오정란(1997)、현대 국어 음운론、형설출판사。

이기문(1998)、신정판 국어사개설、태학사。

이기문 외 2인(1998)、국어음운론、학연사。

이은정(1988)、개정판 한글맞춤법 표준어해설、대제각。

한재영 외 7인(2003)、한국어 발음교육、한림출판사。

梅田博之(2006)、NHK新版 ハングル入門、日本放送出版協会。

天沼寧・大坪一夫・水谷修(1987)、日本語音声学、くろしお出版。

佐藤喜代治(1996)、国語学研究事典、明治書院。

杉藤美代子(1998)、日本語の音 日本語音声の研究3、和泉書院。

中田祝夫 他(1982)、講座国語史 第2巻 音韻史・文字史、大修館書店。

村木正武・中岡典子(1994)、撥音と促音 一英語・中国語話者の発音一、講座 日本語
と日本語教育第3巻 日本語の音声・音韻(下)、明治書院。

(2015年5月9日仙台韓国教育院主催「2015韓国語教育者セミナー」講演資料を加筆したものである。)